

A区分・C区分共通
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和7年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演)出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

別添	なし
----	----

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	演劇	種目	演劇
----	----	----	----

応募区分(応募する区分を選択してください。)

応募区分	A区分
------	-----

複数応募の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、応募企画数から除く

複数応募の有無	無	応募総企画数	
---------	---	--------	--

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数応募の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	
--------------------	--

文化芸術団体の概要

ふりがな 制作団体名	とくていひえいりかつどうほうじんげきだんしんせいさくぎ 特定非営利活動法人劇団新制作座		団体ウェブサイトURL	
			http://www.shinseisakuza.com/	
代表者職・氏名	理事長 眞山蘭里			
制作団体所在地	〒	193-0826	最寄り駅(バス停)	元八王子町2丁目北
	東京都八王子市元八王子町2丁目1419			
電話番号	042-661-0001			
ふりがな 公演団体名	とくていひえいりかつどうほうじんげきだんしんせいさくぎ 特定非営利活動法人劇団新制作座		団体ウェブサイトURL	
			http://www.shinseisakuza.com/	
代表者職・氏名	理事長 眞山蘭里			
公演団体所在地	〒	193-0826	最寄り駅(バス停)	元八2丁目北
	東京都八王子市元八王子町2丁目1419			
制作団体 設立年月	2010年12月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	理事長 眞山蘭里 理事 山形久人 理事 上田望美 理事 眞山勇一 理事 桑原寿紀 監事 松浦明美		演技部4名 文芸演出部5名 制作・事務職員4名 加入条件 劇団の試験に合格した者	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	他の業務と兼任の担当者 を置く	本事業担当者名		小津和 知穂

経理処理等の 監査担当の有無	有	経理担当者	眞山 蘭里
本応募にかかる連絡先 (メールアドレス)	info@shinseisakuza.com		

制作団体沿革・ 主な受賞歴	<p>新制作座は、創立者の1人である、眞山美保とその父、眞山青果父子2代の戯曲を、昭和25年の創立当初より全国の地方都市へ上演活動を展開してきた劇団です。 眞山作品は、「元禄忠臣蔵」(監督:溝口健司)をはじめ数多く映画化され、歌舞伎・新派・新国劇で繰り返し上演され、その作品群は後の作家たちに大きな影響を与えました。</p> <p>昭和27年、眞山美保の第一作「泥かぶら」誕生以前は、モリエール・チェーホフ・木下順二など国内外の古典的を上演。「泥かぶら」以後は、座付き作家の新作書き下ろしの舞台を次々に上演。中国・ブラジル・インドネシアの海外公演では、日本の情感豊かな感動の舞台と高く評価されました。</p> <p>1950年 眞山美保・榎村公吉・草村公宣を中心に、新制作座を創立 1952年 「泥かぶら」芸術祭文部大臣奨励賞受賞 1956年 杉並区中瀬町に初の稽古場を建設 1959年 永年の地方公演活動の貢献に対して眞山美保が、第7回菊池寛賞受賞 1963年 八王子市元八王子町に(厚生省児童家庭局認可)財団法人新制作座文化センター竣工 1972年 劇団創立20周年を記念し、眞山青果作「頼山陽」を皮切りに青果作品の巡演を開始 1982年 歌舞伎関係者を対象に2001年まで眞山青果賞を設ける 1990年 劇団創立40周年記念歌舞伎座公演 眞山青果作・眞山美保演出「坂本龍馬」国立劇場公演 眞山美保作・演出「泥かぶら」 1996年 中国京劇院・北京京劇院による眞山青果作・京劇「坂本龍馬」中国5都市の公演を支援 2006年 眞山青保理事長に就任 2009年 財団法人解散。新制作座文化センターから学校法人国際学園 星槎国際高等学校八王子学習センターに移行、日本初、広域通信制の学校と劇団の共同事業が始まる 2010年 NPO法人劇団新制作座へ組織変更、眞山蘭里理事長に就任 現在に至る</p>		
学校等における 公演実績	<p>文化庁「本物の舞台芸術体験事業」 平成17年度／平成18年度／平成19年度／平成21年度 採択 文化庁「次代を担う子どもの文化芸術体験事業」平成23年度 採択</p> <p>2014年 全国教育委員会主催公演12回/全国15校(自主公演) 2015年 全国教育委員会主催公演17回/全国7校(自主公演) 2016年 全国教育委員会主催公演14回/全国13校(自主公演) 2017年 全国教育委員会主催公演12回/全国13校(自主公演) 2018年 全国教育委員会主催公演14回/全国9校(自主公演) 2019年 全国教育委員会主催公演4回/全国10校(自主公演) 2020年 全国2校(自主公演) 2021年 全国教育委員会主催公演(オンライン含む)12回/全国6校(自主公演) 2022年 全国5校(自主公演) 2023年 全国教育委員会主催公演6回/全国7校(自主公演) 2024年 全国教育委員会主催公演(東京都・笑顔と学びの体験活動:八王子プログラム含む)16回 /全国3校(自主公演)を予定</p>		
特別支援学校等における 公演実績	特に記載する事項はありません。		
参考資料の有無	申請する演目のWEB公開資料	無	
	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

別添	なし
----	----

公演・ワークショップの内容

【公演団体名 特定非営利活動法人劇団新制作座】

対象	小学生(低学年)	○	小学生(中学年)	○
	小学生(高学年)	○	中学生	○
企画名	本物の舞台に触れる ～『泥かぶら』と共に育む感性と表現力～			
企画のねらい	<p>本企画では、演劇『泥かぶら』を通じて、子どもたちに本物の舞台芸術を体験させ、創造力や表現力を育むことを目的としています。テーマである「美しく豊かに生きるための3つの言葉」を伝えるだけでなく、ワークショップを通じて歌や演技に参加し、舞台の魅力を体感します。</p> <p>また、音響効果や舞台の裏側に触れる機会を提供し、セリフを覚えて本番に出演することで、舞台の一員としての感動を体験します。これにより、子どもたちは芸術に触れる喜びを得ると同時に、感性や自己表現力を深めることが期待されます。</p>			
演目概要・演目選択理由	<p><あらすじ> 醜さゆえに「泥まみれの蕪」と呼ばれ、孤独に生きる少女がいました。ある日、旅のおじいさんが彼女に出会い、真の美しさについて教えます。おじいさんは少女に3つの言葉を授けました。</p> <ul style="list-style-type: none"> － 自分の顔を恥じないこと － － いつもにっこり笑うこと － － 人の身になって思うこと － <p>この言葉を胸に、少女は美しくなるための努力を始めます。最初は周囲からいじめられ続けましたが、次第に少女は明るく親切な人柄へと成長していきます。</p> <p>ある秋の日、少女は貧しい農夫の娘を連れ去ろうとする男に遭遇します。少女は農夫を助けるため、自ら身代わりとなって男と旅立ちます。旅の中で、少女の優しさに触れた男の心も次第に温かくなっていきます。</p> <p><演目選択理由></p> <ul style="list-style-type: none"> ・『泥かぶら』は、9歳から12～13歳までの少女の成長を描いており、小学生から中学生の鑑賞に適した作品です。過去には、主催校の先生が「泥かぶら」を子役と勘違いして観劇していたというエピソードもあり、生徒たちは同世代の物語として共感を持って受け止めてくれるようです。 ・この物語は、外見の美しさだけでなく、内面の美しさの大切さを教えてくれます。特に、彼女をいじめていた少女が心から詫言る場面では、言葉の重さと愛の力が描かれています。外見の美しさにとらわれない価値観を教えてくれる作品です。 ・『泥かぶら』は長年にわたり、15,000回以上の公演を行ってきました。この豊富な経験を通じて、どのような環境にも柔軟に対応し、観客と一体となって上演する力を持っています。 			
児童・生徒の参加又は体験の形態	<p><客席からの参加> ワークショップ参加生徒全員が客席から、ワークショップで練習した2曲を手拍子や歌で参加します。これにより、舞台と観客が一体となる特別な体験を共有し、観るだけでなく、積極的に参加する喜びを感じることができます。</p> <p><舞台出演> 2～3名の生徒が村の子ども役として実際に舞台上に立ち、演技を通じて本番の緊張感や感動を直接体験します。自分自身が舞台の一員となることで、芸術の力をより深く感じ取ります。また、稽古によってチームワークの大切さを学びます。</p>			
児童・生徒の参加可能人数	本公演	参加・体験人数目安	村の童役で出演の2～3名とワークショップ参加の100名程度	
		鑑賞人数目安	500名	
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	<p>作・演出: 眞山美保 補綴演出: 眞山美乃 装置: 新制作座演出部 音響効果: 斉藤平 フルート: 川崎 優 振付: 藤間勘晃</p> <p style="text-align: right;">公演時間 100 分</p>			

<p>出演者</p>	<p>老爺・太郎兵衛：林周一 泥かぶら：齊藤舞夕 次郎兵衛：眞山蘭里 こずえ：みやちともこ 中年の女：清水いつ鹿 三郎兵衛：瀬戸貴彦 梅吉：中井響子 惣兵衛：藤間亮</p>					
<p>演目の芸術上の中核となる者(メインキャスト、メインスタッフ、指揮者、芸術監督等)の個人略歴 ※3名程度 ※3行程度/名</p>	<p>眞山蘭里／劇団員の両親の元に生まれ、2歳半で子役として初舞台を踏む。9歳より藤間勘晃・吾妻春葉に師事、舞踊名「藤間晃保」として名取りとなる。12歳でブラジル公演、15歳で中国公演に参加。眞山青果作品にも多数出演し、『泥かぶら』では三郎兵衛、老爺、太郎兵衛、次郎兵衛を演じる。現在、劇団の代表を務めている。</p> <p>眞山美乃／1983年入団。7代目泥かぶら役を13年間務める。眞山青果作・京劇「坂本龍馬」チームに企画制作責任者として参加。お良役も務める。</p> <p>みやちともこ／名古屋音楽大学声楽学科卒業ののち、総合劇集団俳優館に所属。2つの主演作品を文化庁本物の舞台体験事業などで全国を巡演。2020年退団。</p> <p>NPO法人むすめかぶきにて、歌舞伎、日本舞踊の舞台にも出演。2012年十二代市川團十郎丈より市川姓を授与され市川舞花としても活動。</p> <p>齊藤舞夕／東京都出身。日本大学芸術学部演劇学科卒業。</p> <p>2023年より劇団新作座『泥かぶら』に泥かぶら役で出演。制作も担当。主な出演舞台：『魄の唄』『ひめゆり』(2021)(2022)、『木星のワイングラス』など</p>					
<p>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含む</p>	<p>出演者： 9 名 スタッフ： 5 名 合計： 14 名</p>			<p>運搬</p>	<p>積載量： 4 t 車長： 8.6 m 台数： 1 台</p>	
<p>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</p>	<p>前日仕込み 無</p>		<p>前日仕込み所要時間</p>		<p>時間程度</p>	
	<p>到着</p>	<p>仕込み</p>	<p>上演</p>	<p>内休憩</p>	<p>撤去</p>	<p>退出</p>
	<p>8:00</p>	<p>8:00～13:00</p>	<p>13:30～15:10</p>	<p>10分</p>	<p>15:30～16:45</p>	<p>17時00分</p>
<p>※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。</p>						
<p>本公演 実施可能日数目安 ※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</p>	<p>6月</p>	<p>7月</p>	<p>8月</p>	<p>9月</p>		
	<p>10日</p>			<p>10日</p>		
	<p>10月</p>	<p>11月</p>	<p>12月</p>	<p>1月</p>		
	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>	<p>10日</p>		
	<p>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</p>			<p>計</p>	<p>60日</p>	
<p>※※最小条件※※ 間口：10メートル／奥行：5メートル／電源：体育館両側に100vコンセント</p> <p><舞台装置></p> <p>●一幕  ●二幕 </p> <p>体育館（劇場）の広さに合わせ、装置の数や位置を調整することでどんな場所にも適した空間を作り出しています。</p>						

公演に係るビジュアルイメージ
(舞台の規模や演出がわかる写真)

<仕込みの様子>



劇場だと近くでは見られない、本格的な音響ブースや照明機材をより間近で見られるのは体育館公演ならではの。

<子どもたち出演の様子>

●村の童役出演シーン



●舞台メイクにも挑戦



※採択決定後、図面等の提出をお願いします。

●楽屋にて記念撮影



●本番前、楽屋にて稽古



著作権、上演権利等の許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名	泥かぶら
	該当事項がある場合	権利者名 眞山蘭里	許諾確認状況	使用(上演)許諾取付済

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
----	----

【公演団体名 特定非営利活動法人劇団新制作座 】

ワークショップのねらい	<p>ワークショップでは、舞台芸術の基礎である音楽や演技に触れることで、子どもたちの創造力や表現力を伸ばし、舞台の一部として参加する喜びを体験させることを目指します。また、即興性を重視したシアターゲームを通じて、協調性やコミュニケーション力を育てます。『泥かぶら』のテーマに沿った「言葉の力」や「心の成長」を実際に体験し、自分自身の言葉や行動に責任を持つ大切さを学びます。</p>		
児童・生徒の参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	上限100名程度
ワークショップ実施形態及び内容	<p>【シアターゲーム】 出演者と共に演劇の表現を用いたシアターゲームを行います。実際に演劇活動の中で使われており、俳優の表現力、即興力、コミュニケーション能力を高めるゲームで、子どもたちとの交流を図ります。自己表現の向上、創造性の促進、集中力と観察力を高める要素など演劇活動だけでなく日常生活においても必要なスキル向上が望めます。</p> <p>【劇中歌を一緒に歌おう！】 作中で歌われている「てつきりこぶ」と「お月さまいくつ」の旋律を練習し、古謡を通じて伝統的な音楽に触れてもらいます。古謡の音階は子どもたちの耳に残りやすく、公演後も多くの子どもが口ずさむほど親しみやすい曲です。ワークショップで練習した2曲は、本公演で客席から手拍子や歌で参加してもらいます。</p> <p>【音響効果の体験】 本作では、スピーカーからの音だけでなく、楽器などを使った音響効果も取り入れています。ワークショップでは、それらがどのように使われているかを説明し実際に見てもらいます。本公演を見た子どもたちの創造力が大いに刺激され、音を通して物語の中で何が起きているのかを自由に想像し、身近なものから音を生み出す楽しさや工夫を学べます。この体験で視覚だけではなく舞台芸術における感覚的な広がりを作り出し、物語をより深く楽しむことができます。</p> <p>【本物の舞台への出演】 村の童の役で、2名～3名の生徒に劇団員と稽古を行った後本上演に出演していただきます。</p>		
その他ワークショップに関する特記事項等	<p>村の童の役は、150cm未満の児童2名～3名に出演してもらいます。開催校で出演希望の生徒を選出していただき、台本・稽古用DVD等をご郵送いたします。公演当日の舞台設営が出来た段階で、本舞台を使っての稽古・本番となります。舞台衣装の着付け・髪・メイクアップは、劇団員がおこない、楽屋で村の童が出来上がる過程を記念撮影し開催校へお贈りします。なお、第二幕の村の童登場シーンは、客席からの撮影が可能です。一生の思い出となる良い体験になるよう、劇団員が丁寧に優しく演技指導をいたしますのでご安心ください。</p>		

※A4判3枚以内に収まるように作成してください。

別添	なし
<p>本事業への応募理由</p> <p>本事業に対する 取り組み姿勢、および 効果的かつ円滑に実施 するための工夫</p>	<p style="text-align: right;">【公演団体名 特定非営利活動法人劇団新制作座】</p> <p>①本事業に対する取り組み姿勢</p> <p>私たち劇団新制作座は、地元扎根して75年間活動を続け、数多くの子どもたちと共に歩んできました。小学生から高校生まで、これまでに会った子どもたち一人ひとりと真摯に向き合い、その個性に応じた指導やコミュニケーションを提供してきた経験があります。この豊富な経験を基に、子どもたちが安心して自己表現し、成長する環境を作ることに自信と誇りを持っています。</p> <p>現在、少子化や格差社会が進行する中で、芸術鑑賞の機会がますます貴重なものとなっています。特に、演劇に触れる機会がない子どもたちにとって、私たちの提供するこの体験がこの「一度きり」かもしれません。だからこそ、このプロジェクトでは舞台を観るだけでなく、実際に参加し、体験することで、子どもたちにとって深い学びや気づきの場となるよう尽力しています。</p> <p>『泥かぶら』という作品は、9歳から12～13歳という多感な時期の少女が成長する物語です。この物語は、時代を超えて、子どもたちに心の変化や他者との関わり方を考えさせる、普遍的なテーマを持っています。</p> <p>私たちが目指すのは、子どもたちが舞台上で演じ、共に歌い、そして観客と一体となることで、舞台芸術が持つ「一体感」を全身で体感することです。観客や舞台制作者との垣根を越え、子どもたちは劇の一部として参加する喜びと達成感を味わいます。特に普段使用している体育館が、演劇によって全く異なる世界に変わる体験は、子どもたちに強い印象を与え、想像力を大きく広げることと思います。</p> <p>さらに、演劇はコミュニケーション能力や共感力、チームワークを育む絶好の場でもあります。『泥かぶら』を通じて、真実の言葉が持つ力や他者への愛を学び、仲間と協力して一つの作品を創り上げることで、自己表現のあらわし方、協調性を育むことができます。芸術には無限の可能性があり、子どもたちが舞台に参加することで、彼らの心に新たな扉を開くことができると確信しています。</p> <p>この事業を通じて、将来社会で活躍する全ての子どもたちが、自分自身の感性と可能性を信じる力を身につけ、豊かで想像力に満ちた人生を歩んでほしいと願っています。</p> <p>②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫</p> <p><実施校に対する工夫> 事前に、本事業に関する確認事項をまとめた書類をお送りし、公演やワークショップに向けて綿密な打ち合わせを行います。 十分なコミュニケーションを通じて、実施校が抱えている不安や期待を丁寧に聞き取り、柔軟に対応します。 体育館が狭いなど、特定の懸念点がある場合には、舞台監督が現地確認を行い、事業が円滑に進行できるように調整・打ち合わせを行います。</p> <p><児童・生徒に対する工夫> 必要に応じて、公演のリーフレットや観劇の手引きをお送りし、公演への期待を高める工夫をします。 本公演に出演する生徒には、事前に台本やDVDをお渡しし、限られた稽古時間でも円滑に舞台上に立てるよう、万全のサポートを行います。</p>